

ウェブブラウザの国際化

Internationalization of World-Wide Web

多言語が扱えるウェブブラウザを無償公開し、ウェブの国際化と世界的な普及に貢献

ウェブは欧州原子核研究機構 (CERN) で生まれたという経緯もあり、当初から英語以外のラテンアルファベットの文字 (西ヨーロッパの言語で主に使用される) も使える仕様となっていました。しかし日中韓等のアジア圏の言語はもちろん、ロシア・ギリシャ・アラビア・ヘブライ語等、多くの言語はウェブで取り扱うことができませんでした。1993年、NTT研究所は当時広く使われていたNCSA Mosaicというウェブブラウザを改良し、それまで使えなかった数多くの言語を扱えるようにしたものを、インターネット上で全世界に向けて無償で公開するとともに、ウェブの国際化技術の提案を行いました。NTT研究所のこの技術は、ウェブやインターネットの世界的な普及を大きく後押しすることとなります。

NCSA Mosaic:
National Center for Supercomputing Applications Mosaic



さまざまな言語を表示するウェブブラウザ